

篠原幸雄からやましたゆきおへ

# マンガと生きた50年

31

初めての米国出張



ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「マンガと生きた50年」は、東京都江東区・森下文化センターにて2017年10月20日（金）から29日（日）の会期で開催しました。新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへ マンガと生きた50年」で展示した展示物を再構成したものです。

**おやしマンガ同人誌**

**つれづれ草**

# マンガ展

篠原幸雄からやましたゆきおへ

## マンガと生きた50年

おやしマンガ同人誌「新つれづれ草」の山下幸雄は1970年少年ジャンプから篠原幸雄としてマンガ家デビューその後、マンガ家、デザイナー、編集者としての立場を変えながらマンガとの関わりを持ち続けて生きてきた。そして今再び、やましたゆきおとしてマンガを描き始めた！

入場：無料



イラスト：篠原幸雄  
(著者少年ジャンプ連載「男のつれづれ草」の作者の父)

**日時：10月20日（金）～10月29日（日）**  
午前9時より午後9時まで（最終日は午後5時まで）

**会場：森下文化センター1F展示ロビー**

**お問合せ：森下文化センター**  
〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17  
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677  
都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分  
都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分  
<http://www.kcf.or.jp/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター





# 31、初めての米国出張

## CESへ行く

米国任天堂の年末のガイドブックの仕事がなんとか収まり、人気も上々だということで、翌年の1月に米国のラスベガスで開催される「CES（コンシューマー・エレクトロニクス・ショー）」という、全世界の家電メーカーが新製品の発表を行う一大見本市に行くことになった。

まだ、「ゲームショー」も「E3」も無かった時代で、米国任天堂が家電の見本市の中に独自の大きなブースを作り、今年の新製品や営業戦略を発表するイベントだ。米国任天堂が出展するので他のゲームメーカーもその周辺にこぞってブースを作っている状態になっていました。

Koikiくんは、ガイドブックを作る関係で何度か米国へ出張していましたが、私は初めてで、会社も海外出張のノウハウが無く、どうしたら良いかわからない状態でした。

CESの入場券とラスベガスのホテルの予約は米国任天堂が用意してくれました。こうなったら、とにかく日本と米国の往復航空券をふたり分用意しなければならぬ。お金も無いので、とにかく安いチケットが買えると聞いて、当時はまだ格安チケットを売っている怪しい会社というイメージだった「HIS」に電話で航空券を予約しました。安いので、往復の飛行機の便は決まっています。変えられない、米国での滞在期間は七日間で、こ

れも変更できない。

チケットは前もって受け取れずに、成田空港の  
出発カウンターの片隅に仮設の様な机があり、怪  
しげなツアー名の旅行会社のスタッフから、こそっ  
と渡される感じだった。

それでもそのチケットはちゃんと使えました。

その後も、海外出張の航空券はH・I・Sで買うこ  
とになりました。

## いざ！ アメリカ大陸へ

Ko-iくんは日本の英語教育で学んだ英語を駆  
使して、なんとかアメリカ人とコミュニケーション  
が取れている感じでしたが、私は中学1年生の  
時に英語教育から脱落したまま、高校を卒業して  
しまったので、英語がまったく分からず、ただK  
o-iくんの後を付いて行く様な旅の始まりでした。

成田空港からロサンゼルス空港へ着いた私に、  
あの恐怖のイミグレーションが待ちかまえていま  
した。

ひとりで審査ブースに通され、屈強な黒人検査  
官が私のパスポートと検査票を何度も見直しなが  
ら、英語で何か言うのですが、私には全く何を言  
われたか分からず、ただひたすらにサイトシー  
ンと繰り返していました。

検査官はあきれた様に、パスポートにスタンプ  
を押して、とつと出ていけとばかりに私にパス  
ポートを投げつけてきました。

私の米国入国の恐怖体験でした。

ロスアンゼルスでは、マンガ家のしごと大介さ  
んのお父さんを訪ねた後、国内線の飛行機に乗り  
換えてラスベガスへ行きました。

## ラスベガスへ

ラスベガスの空港に着くと空港のロビーからスロットゲームの機械が並んでいて、骨の髄まで吸い取られてしまうのではないかと、恐ろしい所に来てしまったと思ったのを記憶しています。

ラスベガスに着いてからは米国任天堂のスタンプの方にいろいろ案内をして頂きました。任天堂のブースでは、米国任天堂のA社長に時間を作っていただきご挨拶ができました。

またレストランやショーを見る時も、米国任天堂のスタッフの方が絶妙なチップの渡し方を見せてくれ、良い席を取って下さいました。

その他のゲームメーカーのブースを訪ねた時も、

「プレイヤーズガイド」を編集したプロダクションの社長と副社長だということもあってか、どこでも歓迎していただき、新しく日本で作って来た、表が日本語で裏が英語の名刺を配りまくりました。

米国では各ゲームメーカーの社長にご挨拶できたのが、日本での対応と大きな違いでした。

## ラスベガスからシアトルへ

Koikunがレンタカーのハンドルを握り、私は助手席で、アメリカ大陸の西海岸をひたすら北上していきましました。

途中小さなモーテルで一泊した時に、Koikunがドアがちゃんと閉まらない、とやたら心配していたのを記憶しています。

シアトルはアメリカの西海岸の北の端、カナダの近くにある、日本からは太平洋をはんさんで一番近い港町です。

まだスターバックスがシアトルのダウンタウンにある小さなカフェで、今の様な世界展開するずっと前、イチローがシアトルマリナーズに入るずっと前の時期で、シアトルを知る日本人はほとんどいませんでした。

Ko-iくんと私はシアトル市内のホテルに宿を取り、そこからさらに近くのレッドモンドと言う町にある、米国任天堂の本社を訪ねました。

